

中津川市地域包括支援センター	
取り組み	認知症施策
	◇認知症の啓発活動 ・9月のアルツハイマー月間において地域包括・在宅介護支援センターの協力のもと市役所で全庁的に認知症の啓発活動を行った。
実施理由	・認知症の理解を求める啓発活動を全庁的に取り組むことで市民へのPR効果が高くなる。また、職員の意識を高めることにもつながる。
内容	・各包括・支援センター協力のもと啓発ロゴを作成し、オレンジポロシャツを作成。関係機関と職員で着用することで市民へ認知症の啓発を図った。
考えられる成果	・市の職員・関係機関にとって認知症の啓発活動の理解を深める機会となり、さらには市民に対しても啓発ができた。
取り組み	認知症施策
	◇市民病院に認知症相談窓口開設準備 ・中津川市民病院脳神経内科外来患者とその家族に対して早期対応としての認知症相談窓口開設準備。
実施理由	・認知症と診断されたがこれからどうなっていくのか、どんなサービスがあるのか知りたいと来所する人が増えてきたため。
内容	・市民病院関係者と在宅医療・介護連携支援センターと事前打ち合わせを実施。市民病院脳神経内科にて認知症と診断された際の、今後の生活についての相談を院内で早期に対応できる場づくりとして関係者と調整中。
考えられる成果	市民病院で認知症と診断された方が介護保険につながるまでの間の早期支援が可能となる。相談窓口の周知や今後の見通しについて早期に対応できる。
取り組み	スーパービジョン（SV）に対する取り組み
理由・根拠	「SV文化（日常業務に浸透・定着した環境）を育てる」
	・市内の保険者、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）、サービス事業所においてSV可能な体制を構築することで、対人援助職の成長・スキル向上をめざす。
内容	・個別SV実施のため説明会の開催 ・個別SVの開催（今年度4回予定していたがコロナで2回中止） ・主任ケアマネ連絡会SV研修会の開催 ・地域ケア個別会議SV研修会の開催
考えられる成果	・市内の保険者、包括、居宅等事業所等の業務の質の向上
対象	・個別SV説明会　：保険者、包括 ・個別SVの実施　：保険者、包括、主任ケアマネ、居宅ケアマネ ・主任ケアマネ連絡会SV研修　：主任ケアマネ ・地域ケア個別会議SV研修会　：保険者、包括、主任ケアマネ、薬剤師、弁護士

瀬戸の里地域包括支援センター	
取り組み	個別対応とネットワーク作り
実施理由	コロナ禍にて予防教室・出前講座・各種会議で顔を合わせる機会が減少。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の中で心配な方へ個別で電話での状況確認と郵送での健康管理や介護予防への取り組み資料の配布を行った。 ・地域の関係機関、民生委員、区長さんと個々でのやり取りや懇談を行い、苗木地区の現状確認と課題集め、今後のネットワーク作りについて検討を行った。
考えられる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での健康管理と介護予防への意識向上、家でもできる取り組みを広めた。 ・各関係機関には地域包括支援センターとしての活動業務を知っていただく機会となり、相談依頼もくるようになった。

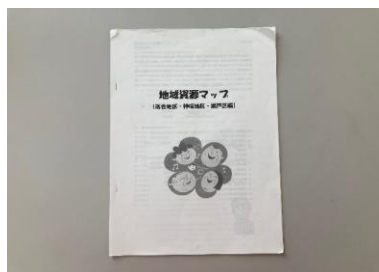
中津川市ひだまり苑地域包括支援センター	
取り組み	コロナ禍における介護予防事業利用者へのフレイルチェックの実施
実施理由	・今年度緊急事態宣言の解除の期間に教室を開催したが、回数も少なく参加者の状態がなかなか把握できなかった。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき元気教室に参加予定だった方（介護予防サポーターを含む）に、フレイルチェックを利用して状況を確認し、個人個人の予防のためにできる取り組みを考えてもらった。 <p>参加登録者（サポーター含む） 82名</p> <p>*アンケート</p> <ol style="list-style-type: none"> ①チェック用紙—後期高齢者の質問表(15問) ②治療中の疾患の有無 ③チェックをしてみて自分で取り組めること ④その他（意見等） <p>*回収集計とチェック内容に対する返信</p>
考えられる成果	<p>◇人生100年時代をいきいき元気に過ごしていただくために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自粛生活の影響を把握する。 ・各自が予防のためにとりくめることを意識する。 ・返信をすることで、包括からの途切れのないコミュニケーションの機会となる。

中津川市ひだまり苑地域包括支援センター	
取り組み	70歳から74歳の要援護者の早期発見とニーズ把握
実施理由	<ul style="list-style-type: none"> ・近年70代の相談者が多くなってきている。 <li style="padding-left: 20px;">R1年度70代の相談者 <li style="padding-left: 40px;">男性9人 女性4人 , 独居世帯10人 高齢世帯3人 ・相談は病気の悪化や経済的な困窮、孤独死に関する内容や高齢になってからの転入ケースであった。特に、男性で独居世帯の人が多かった。 ・坂本地区は前期高齢者が多いため、70歳から74歳の独居高齢者に対象を絞り、現状とニーズの把握を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ①実態把握訪問の対象者を確認する。 57名 <li style="padding-left: 20px;">・すでに認定を受けている方が3名いた。 ②コロナ下で訪問できたケースの傾向をみる。 <li style="padding-left: 20px;">・持病があり自宅療養中の方、病状が悪化し救急車を何度も読んでいる方、区に未加入で近隣との距離を持ちたい方（将来のことを投げやりに考えている人）、急に一人なり淋しい思いをしている方、仕事を辞めたり仕事が無くなって生活の張り合いをなくしている方といった実態がある。 <li style="padding-left: 20px;">・反対に仕事があり、また地域ボランティアに参加し張り合いをもたれている方、昼間不在な人も多い。 ③継続して実態把握訪問を行う。 ④昨年度の介護保険新規申請者の基礎疾患を確認した。 <li style="padding-left: 20px;">・70代では筋骨格系疾患やがん、認知症、および心臓病や脳血管疾患が多かった。
考えられる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・70代の独居男性は、相談窓口について関心が低いため、面談することで地域包括支援センターの周知ができ、身近に感じてもらえる。 ・体力や生活力のある方が多いが、健康管理については認識が低いため、情報提供をすることで、体調の悪化防止や介護予防につながる。 ・転入や一人暮らしなど環境の変化があった方でも安心して生活ができるように、地域課題を把握する。

中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター	
取り組み	支援センター業務のコロナ禍での活動
実施理由	・4月より支援センター事業に制限がある中で、自分たちにできる活動を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・独居を中心にポスティングによる情報提供や相談先の周知。 ・地域資源マップの作成。（地域のケアマネジャーへ配布） ・介護予防事業参加者へのアンケート実施。（R2.4、R3.2月実施） ・元気あっぷる体操の作成とリーフレットと動画をHPに掲載。 ・令和元年度、実態把握で確認した現病歴・既往歴の集計、分析。
考えられる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への情報提供や、地域包括支援センターが身近な相談窓口であることを周知することにつながった。 ・地域の資源についても、ケアマネジャーと情報共有することができた。 ・介護予防事業参加者のアンケート結果では、特に運動については、自分たちで工夫して体を積極的に動かしていることが4月のアンケートにより知ることができた。令和3年2月にも実施したため、アンケートの結果を来年度の予防事業へと活かしていく。
取り組み	男の人が気軽に集まれ、交流ができる場、学べる場づくり
実施理由	・男性の料理教室に代わる企画で、男性の参加意識につながり興味を引き付けるものは何かがあるかを事前にリサーチし、今回「めんずカフェ」を開催することになった
内容	・体力測定、バスボム作り、駐在所との交流（交通ルール）、管理栄養士の話、男の筋力up↑体操など当初の計画と参加者の声を聴きながら内容を計画。
考えられる成果	・自分たちがやってみたい事・学びたい事・学んでみたい事を実現できるよう、参加者の声を大切にしながら実施。参加者からも積極的な発言があり、満足していただけていると感じている。



元気あっぷる体操



地域資源マップ

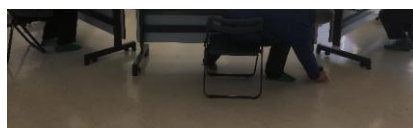


アンケート





ポスティング資料



めんずカフェ（男性の集い）

中津川市シクラメン地域包括支援センター	
取り組み	総合相談支援事業 暮らしの保健室（阿木診療所と共催）
実施理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各社会資源の機能をより発揮し、相談拠点としての役割を果たす為。 ・地域の医療保健福祉の向上、連携(地域包括ケア)。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、介護、健康、暮らしに関する悩み、困りごとの相談窓口を毎週金曜日の午前中に診療所待合室に開設。 ・概ね毎月最終金曜日は、健康増進や介護予防等を目的とした講座を公民館で開催。 ・体制：診療所看護師、包括相談員
考えられる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・より地域に開かれた相談窓口を開設する事(アウトリーチ)で、地域住民にとって医療、福祉のワンストップ相談拠点をつくる。 ・関係機関との連携、その後の継続した関わりにつながり事ができる。
その他	<p>(1)経過、活動実績(7月～12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆令和2年7月～実施。 ◆活動実績： <ul style="list-style-type: none"> ①相談月平均件数：3件 ②健康講座：開催5回(12月は中止)、内容(新型コロナウイルス予防、骨粗鬆症、減塩、薬、介護保険等)、1回あたり平均参加者数16人 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口のさらなる周知と相談実績の評価



健康講座の様子

中津川市北部地域包括支援センター	
重点的に取り組んでいる事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議や訪問を通して出てきた地域課題について地域性をいかにしながら取り組んでいく。
実施理由	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域は広範囲であり地域課題にも地域性がある。 ・課題に対して地域や関係機関と協力しながら取り組む中でネットワークを作っていきたい。

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・加子母：透析通院の移動手段への取り組み。 ・蛭川：通う場所の調査、地域の方の動向を知る 担い手探し。 ・男性対象の介護者の集いの開催。（※コロナ禍で開催できず来年度に計画） ・地域包括ケアネットワーク会議の開催。 <p>付知：事務局のメンバーで紙面（アンケート形式）で意見交換を行う。</p> <p>坂下：事務局会議開催。</p>
考えられる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を地域の方々に知ってもらい、共有し一緒に考えていける。